

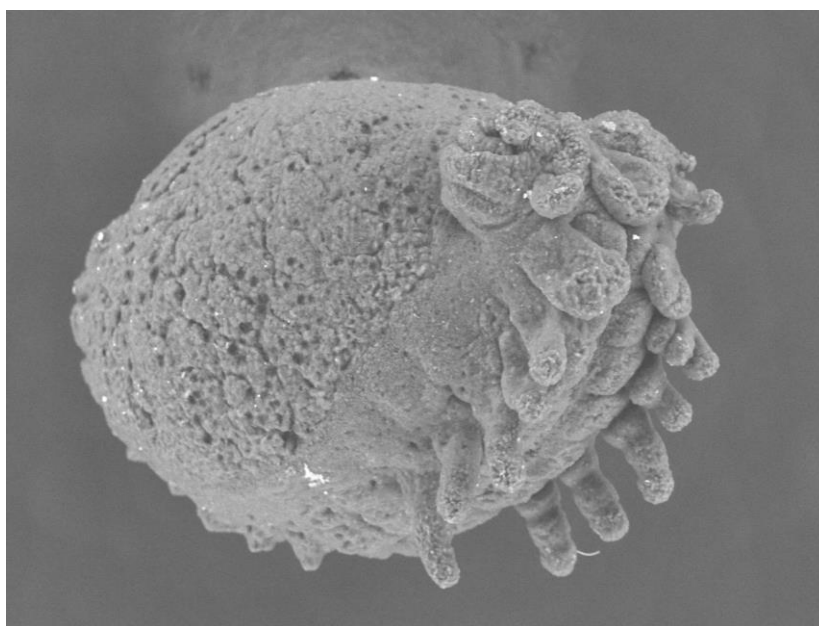
## B-17

# 電子の目で見えるミクロの世界 身近な生きものたちの不思議

「電子の目で見えるミクロの世界」のブースでは、ぜひとも走査型電子顕微鏡を実体験していただきたいと思います。

ここでは生物科学科1年生30名が実習「生物学基礎実験」の中で課題観察した8つのテーマに関する写真をパネル展示として発表します。いずれも「私たちの身近な生きもの」を対象とした観察ですが、普段から見慣れた生きものであっても、スケールを変えて改めて見つめてみると、新たな発見や想像もしなかったような世界の広がり直面することがあります。

ハチ目昆虫・カブラハバチ卵内で形成中の胚（×250で観察）

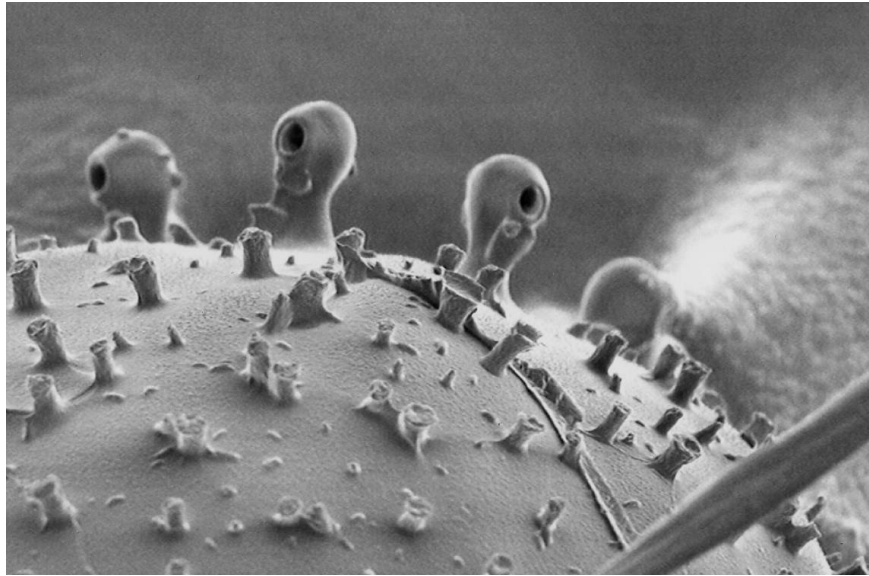


TM-1000

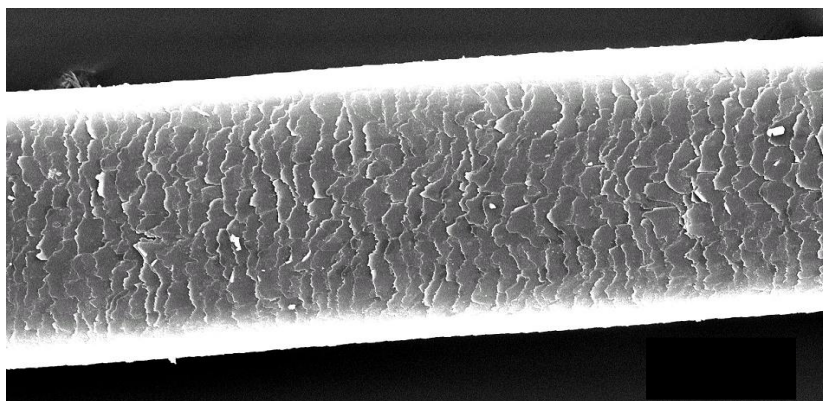
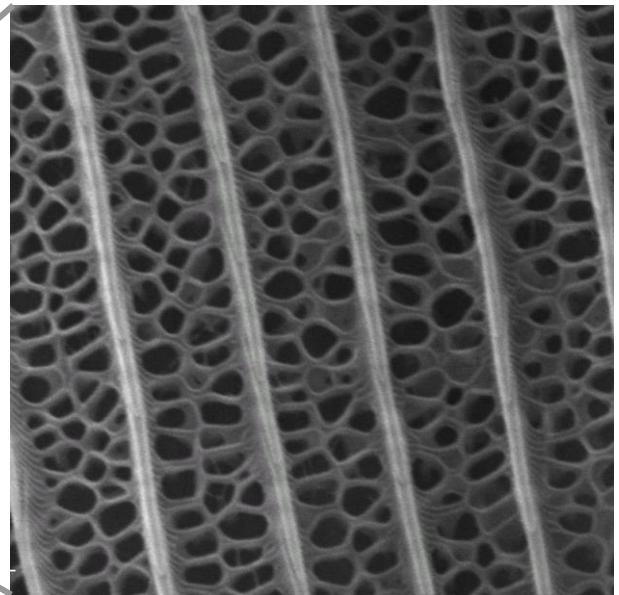
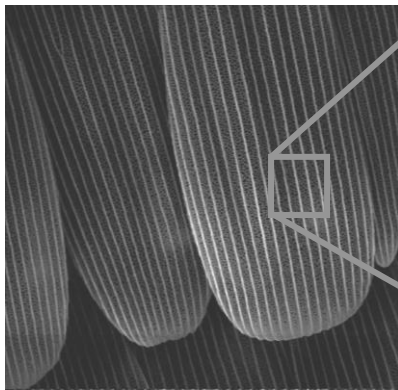
2005/05/12 11:00 L

200 um

カメムシ<sup>もくこんちゅう</sup>の卵<sup>たまご</sup>の先端<sup>せんたん</sup>から空気<sup>くうき</sup>を取り込む孔<sup>とこ</sup>（エアロパイル）<sup>あな</sup>（×3000で観察<sup>かぎつ</sup>）



チョウ<sup>もくこんちゅう</sup>目昆虫・カラスアゲハの翅<sup>はね</sup>の鱗粉片<sup>りんぷんぺん</sup>  
右の写真は拡大図



ヒトの髪<sup>かみ</sup>の毛  
（約×500で観察<sup>かぎつ</sup>）

信州大学理学部生物科学科1年生（「生物学基礎実験」受講生），東城研究室